

音楽研究会 部会記録

日時 平成29年11月8日(水) 15:30~16:45

部会名 音楽づくり 主任 吉田 百合子

参加数 12人 司会 吉田 百合子 記録 西 久美子

研究部 研究テーマ：子どもの意識の流れを生かし、音楽能力の高まりを目指した授業のあり方

部会テーマ：一人ひとりの発想を生かし、思いや意図をもって音楽をつくる活動

○指導案検討 本町小学校 望月 竜太先生

「音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくろう」

～本町小の宝 百年桜に思いを寄せて～

(提案)

- ・はじめ、なか、おわりの3部構成にする。
- ・本時では、はじめとおわりはリコーダーの2つの旋律の順番を考えてつなげるところから始める。
なかは、箏とリコーダーの問いと答えを意識し、子どもたちが発想を広げる。
- ・「春の海」の鑑賞は、グループごとにボードに書き込みながら深めた。A-B-Aの構成、箏と尺八の掛け合いの部分など、十分に味わって鑑賞できている。
- ・問いと答えの定義が曖昧。何をもちいて問いと答えとするのか、どうしたら掛け合っているように聴こえるのか迷っている。
- ・自分の旋律を大事にしたいという先月の研究から、掛け合いは自分のつくった2小節の旋律をもとに、そのまま2小節分を使ったり、1小節に区切ったりして表現できるようにする。
- ・初めに提示したモデル演奏の形を模倣しているグループが多かった。

(協議)

- ・はじめとおわりの部分までは前時のうちにつくり、本時はなかの部分の工夫ができるようにしたい。
- ・モデル演奏がかぎになる。誰もが安心して活動に取り組めるベーシックなものがよいが、音の重なりを感じられるような発展的なものも考えられる。
- ・問いと答えは、次の人にバトンパスをする心を大切にしながら、拍の流れにのって演奏できればそのように聴こえる。
- ・子どもが「春の海」を掛け合いを“交互”と表現しているなら、子どもの言葉を使ってよい。
- ・「春の海」の面白さは、ただ掛け合いをしているのではなく、特徴的なリズムにもある。今回の学習でも、旋律を組み合わせるだけでなく、もう少し即興的に表現することで、より「春の海」の魅力をいかした音楽づくりになるのではないか。
- ・ワークシートでも旋律線をおさえているが、初めから動きを意識して旋律をつくるのは考えにくい。旋律線は鑑賞で扱い、この單元では、困っている子への手立て程度でよい。
- ・約束事として、箏からリコーダーへの問いと答えにすると決められているが、必ずしもその順番でなくてもよい。問いと答えを使って全員がまとまりのある音楽をつくることのできるための手立てとしての約束のため、余計なことは入れない。
- ・掛け合う際の約束事は、「春の海」のリズムを使うことと、旋律と同じ5音を使うこと。
- ・共通事項として、変化をねらうことができるのではないか。
- ・本時のめあては「春の海」の技をつかうというより、「春の海」のかけ合いをいかすことをねらいたい。
- ・活動の中で、いつでも「春の海」に戻れるようにしておくことが必要。